



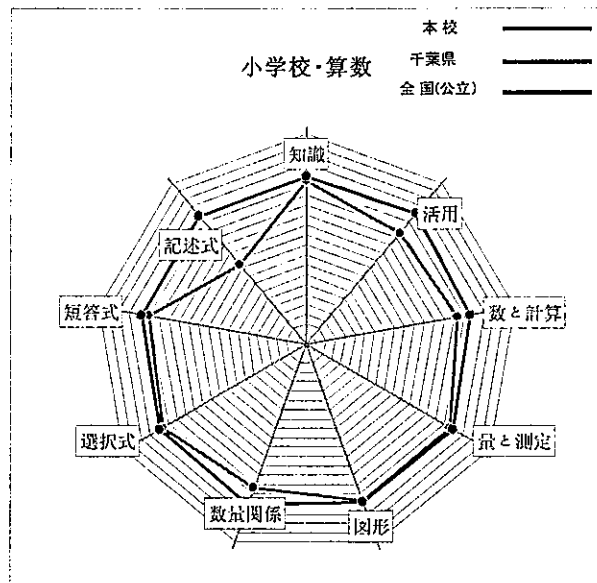
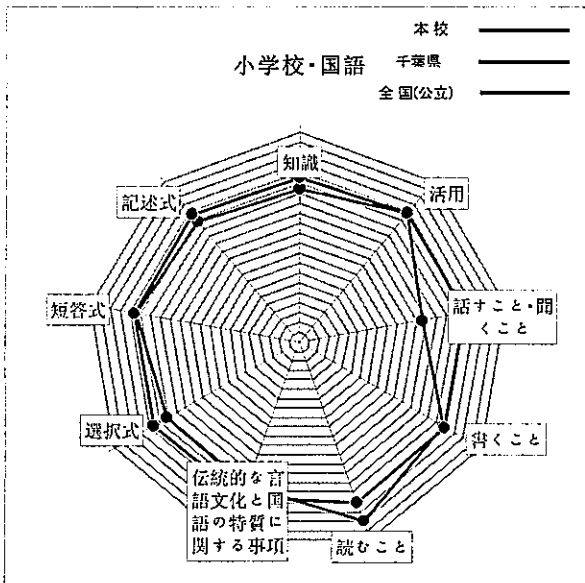
せんしん

千葉日報 10月22日付けの朝刊によると文部科学省は、現在禁止している教育委員会による学校別の成績公表を2014年度の全国学力・学習状況調査より認める方向で検討をしており、調査結果を踏まえて11月にも結論を出す方針であると言います。昨今、新聞報道で静岡県知事の言動が取り沙汰されましたが、今後もこの件は話題を呼びそうです。

全国学力・学習状況調査について

今年度6学年を対象に全国学力状況調査が行われました。本校では、以下のような結果が得られましたので、保護者の皆様に公表させていただきます。本調査は、児童の学力の一部を示すもので、学力全体を判断するものではありませんが、学校では、考察に基づいて今後の授業改善に努めて参ります。ご協力をお願い致します。

尚、本データで他校と比較し、学力の上下等を問うことはできないものと考えております。ご理解の上、今後の教育活動へのご協力をよろしく申し上げます。



小学校 国語	
A	知識 C
B	活用 B
領域	話す・聞く C
	書くこと B
	読むこと A
	伝国 C
問題形式	選択式 C
	短答式 B
	記述式 C

小学校・算数	
A	知識 B
B	活用 C
領域	数と計算 C
	量と測定 B
	図形 B
	数量関係 C
問題形式	選択式 B
	短答式 B
	記述式 C

※ABC評価は県平均との差+5ポイント以上でA、-5ポイント以上でC、その間をBとしています。

考察(質問紙結果含む)

基本的な生活習慣による正答率と回答内容の関係にはばらつきが多く、大きな差は見られません。部分的な結果ではありますが、挑戦する態度や自己肯定感を持っている児童は、正答率が高い傾向が現れました。このことは、学校行事や児童会活動を通して、高学年が中心となり、活動した結果、自己肯定感が高くなり、学習にも効果が波及したものだと考えられます。しかし、行事の準備や運営など、児童による主体的な活動が行われ、情意面に正の効果が見られる一方、前述したように国語算数とともに、基礎的基本的な力と、問題文や素材文に対する読解力が不十分で誤答する傾向が見られます。今後、文章問題や記述式の問題に対応する読解の学習と自分の考えを表現する表現学習(作文・発表・プレゼンテーション)に取り組むよう工夫し、授業改善を図って参ります。また、授業と授業主体の行事のバランス、また、言語活動を多く取り入れた学校行事の運営をし、児童の情意面での意欲を高い位置に保ちつつ、学力の向上を目指したいと思います。

※国立教育政策研究所のホームページに調査問題が記載されています。

「平成25年度全国学力・学習状況調査」の結果について【富里市 小学校】

平成25年4月24日(水)に、小学校第6学年、中学校第3学年全児童・生徒を対象として、全国学力・学習調査が実施されました。
本市、児童・生徒の実施結果についてお知らせします。

1 全国平均正答率との比較

富里市 小学校の調査結果より

国語A	主として「知識」に関する問題	C
国語B	主として「活用」に関する問題	B
算数A	主として「知識」に関する問題	B
算数B	主として「活用」に関する問題	B

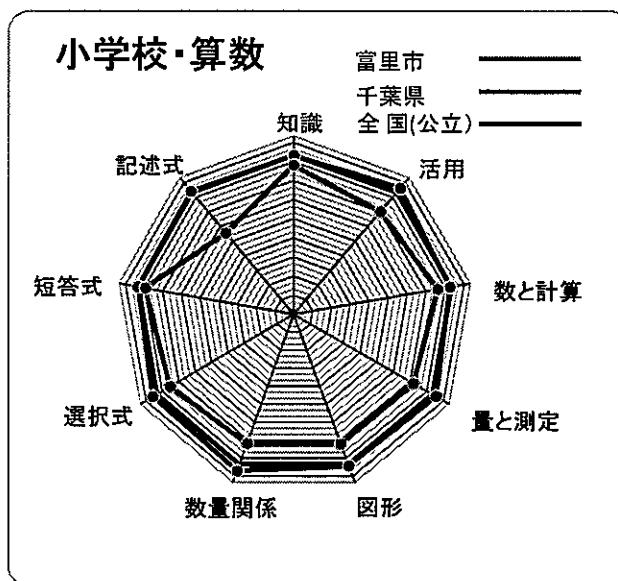
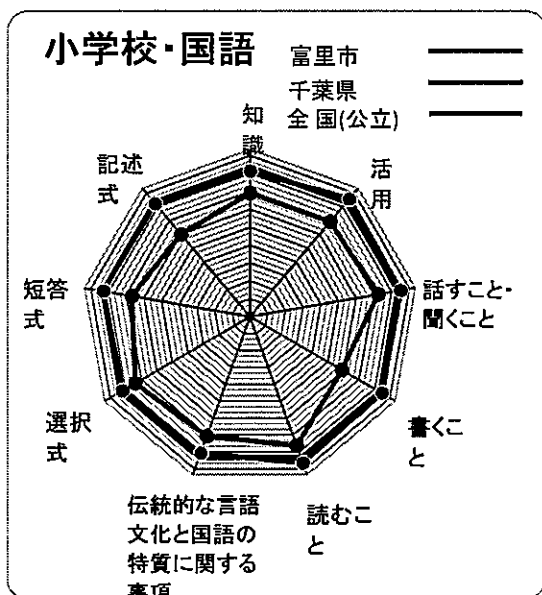
小学国語	A	知識	C	
	B	活用	B	
	領域	話すこと・聞くこと		B
		書くこと		C
		読むこと		B
		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		B
	問題形	選択式	B	
		短答式	B	
		記述式	C	

国語A 算数A(主として「知識」に関する問題)
○身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
○実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

国語B 算数B(主として「活用」に関する問題)
○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
○様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

小学算数	A	知識	B
	B	活用	B
	領域	数と式	B
		図形	B
		関数	B
		資料の活用	B
	問題形	選択式	B
		短答式	B
		記述式	C

全国平均正答率との比較について
A; 5.0%以上上回っている場合「良好」
B; +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」
C; -5.0%より下回っている場合「要改善」



2 結果分析と今後取り組む内容(小学校)

国語A(知識)で全国平均正答率を5%以上下回っていますが、国語B(活用)と算数A(知識)、算数B(活用)では、ほぼ全国平均と同じ正答率が得られました。領域・問題形式を分析してみると、国語では「書くこと」問題形式では、国語・算数ともに記述式で全国平均よりも下回りました。

国語Aの「漢字の読み書き」では全国平均正答率とほぼ同じ高い正答率を得ることができました。『とみの国』検定等を活用してさらに基礎学力の定着を図っていきます。

「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く」問題や、国語Bの「目的や意図に応じ必要な内容を適切に引用して書く」問題、「目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く」問題では、全国平均正答率と5%以上の開きがありました。全体をとおして「書くこと」課題があることがわかります。改善策の一つとして読書活動の充実があります。読書には、読解力を育てるだけでなく、複雑な長文の問題に抵抗感をなくすのに効果があります。また、授業の中で文章をじっくり読み取る時間を設ける、国語科以外でも自分の考えをまとめる活動に時間をかけるなどの対策をおこなっています。

算数A(知識)の結果から、基礎的な計算処理問題はよくできていることがわかります。それに対して、算数B「式の値が何を表しているのかを書く」「表から数値を適切に取り出し、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述する」「単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述する」問題は全国平均正答率と比較して5%以上下回る正答率となりました。自分の考えを多様な方法で表現したり、発表の仕方を工夫したりを授業改善に努めていきます。

質問紙による教科に対する意欲については、国語・算数ともに60%程度の児童が、好きと回答しています。今回の調査で好きと回答できなかった児童に対しても学習意欲が保てるような取り組みをしていく必要があります。そのためには、まず児童に達成感を味わわせることが必要です。富里市全体で取り組んでいる『とみの国』検定は、繰り返し検定に取り組むことができるので達成感を味わわせながら基礎学力の定着を図る上では効果的であると考えられます。さらに、家庭学習の習慣化を身に付けさせるのにも有効です。

3 質問紙調査について

『質問紙調査』とは学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する質問紙調査です。一部抜粋して紹介します。

○朝食を食べていますか。

富里市小学校全体では、95%の児童が「毎日食べている」もしくは「ほぼ毎日食べている」と回答しました。これは全国と同程度の回答率ですが、「あまり食べない」「まったく食べない」児童も5%いました。これは回答率だけの問題ではなく、改善に向けて取り組んでいく必要がある問題です。

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

92.8%の児童が、あると回答しました。達成感を味わうことの素晴らしさを学校生活の中でたくさん経験させていきます。

○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことはむずかしいと思いますか。

70%近くの児童が難しいと感じていると回答しました。また、正答率との関係で分析してみると正答率が低くなるにつれて難しいと感じる児童の割合が増えていくことがわかりました。

○学校の授業などで自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

半数の児童が「難しい」「どちらかというと難しい」と回答しました。原稿用紙の質問と同様、書くことに対する抵抗感がややあるようです。学習活動の中に「書く活動」を意識的に取り入れていく必要があります。

学校の臨時・非常勤職員人件費概算(H25当初予算ベース) 学校教育課所掌分

小学校教育指導事業

臨時・非常勤職員	富里小学校	富里第一小学校	富里南小学校	浩養小学校	洗心小学校	日吉台小学校	根木名小学校	七栄小学校	計
学校図書館司書	531,823	531,823	531,823	531,823	531,823	531,823	531,823	531,823	4,254,586
外国語指導補助員	858,594	858,594	858,594	858,594	858,594	858,594	858,594	858,594	6,868,751
個別指導補助員	2,182,185	1,091,092	1,091,092	1,091,092	1,091,092	1,091,092	1,091,092	1,091,092	9,819,830
補助教諭(複式)					2,389,668				2,389,668
計	3,572,602	2,481,509	2,481,509	2,481,509	4,871,177	2,481,509	2,481,509	2,481,509	23,332,835

	富里小学校	富里第一小学校	富里南小学校	浩養小学校	洗心小学校	日吉台小学校	根木名小学校	七栄小学校	計及び平均
学校当たり	3,572,602	2,481,509	2,481,509	2,481,509	4,871,177	2,481,509	2,481,509	2,481,509	23,332,835
学級当たり	178,630	413,585	165,434	413,585	974,235	137,862	248,151	190,885	250,891
児童当たり	5,644	17,853	5,527	43,535	105,895	4,894	10,340	6,412	9,493
児童数(人)	633	139	449	57	46	507	240	387	2,458

学校の維持管理経費概算(H24決算ベース) 教育総務課所掌分

小学校一般管理事業

予算項目		富里小学校	富里第一小学校	富里南小学校	浩養小学校	洗心小学校	日吉台小学校	根木名小学校	七栄小学校	計
需用費	消耗品費	2,141,962	1,178,781	1,782,304	1,039,439	843,993	2,087,600	1,490,126	1,414,000	11,978,205
	燃料費	244,380	198,687	2,190,412	32,444	152,365	465,151	321,919	311,054	3,916,412
	印刷製本費	29,400	27,825	42,420	24,150	9,975	25,725	18,900	0	178,395
	光熱水費	6,196,706	3,126,801	6,693,047	3,199,446	1,201,359	6,773,770	3,391,223	3,836,047	34,418,399
役務費	通信運搬費	432,002	300,700	367,011	264,831	272,284	391,819	263,001	336,391	2,628,039
	手数料	35,910	19,320	18,690	44,520	34,860	28,665	14,790	24,570	221,325
委託料		455,288	332,037	327,726	304,610	324,174	365,051	347,350	369,104	2,825,336
使用料及び賃借料		47,565	79,063	47,565	47,565	47,565	47,565	47,565	47,565	412,018
原材料費		49,353	14,174	68,670	29,840	34,683	56,068	56,037	49,926	358,751
計		9,632,566	5,277,388	11,537,845	4,986,845	2,921,258	10,241,414	5,950,911	6,388,657	56,936,880

小学校施設維持管理事業

予算項目		富里小学校	富里第一小学校	富里南小学校	浩養小学校	洗心小学校	日吉台小学校	根木名小学校	七栄小学校	計
需用費	消耗品費	0	0	0	0	49,590	0	0	0	49,590
	修繕料	786,619	1,060,554	1,269,238	636,778	500,368	1,477,403	2,566,106	913,388	9,210,450
役務費	手数料	9,450	9,450	24,450	15,000	15,000	9,450	24,450	9,450	116,700
委託料	清掃	367,939	554,384	150,134	367,939	367,939	150,134	150,134	150,134	2,258,738
	保守管理	728,364	648,984	4,355,064	1,047,984	787,059	711,984	632,184	632,184	9,543,805
	植栽管理	301,830	297,903	473,463	151,050	151,050	151,050	270,330	151,050	1,947,722
	廃棄物処理	14,858	14,858	14,858	14,858	14,858	14,858	14,858	14,858	118,860
	水質検査	25,751	25,751	25,751	25,751	25,751	25,751	25,751	25,751	206,010
	特殊建築物	100,624	100,624	100,624	100,624	100,624	100,624	100,624	100,624	804,995
	地中検査	0	0	0	0	0	0	703,500	499,800	1,203,300
使用料及び賃借料	用地	0	0	1,673,189	0	0	0	358,655	160,800	2,192,644
工事請負費		3,001,716	1,082,526	908,250	262,500	546,000	808,056	3,613,866	990,126	11,213,038
備品購入費		198,541	43,141	130,837	43,141	43,141	43,141	342,391	43,141	887,471
計		5,535,690	3,838,173	9,125,857	2,665,624	2,601,379	3,492,449	8,802,847	3,691,304	39,753,323

	富里小学校	富里第一小学校	富里南小学校	浩養小学校	洗心小学校	日吉台小学校	根木名小学校	七栄小学校	計及び平均
学校当たり	15,168,256	9,115,561	20,663,701	7,652,468	5,522,636	13,733,863	14,753,758	10,079,961	96,690,203
学級当たり	758,413	1,519,260	1,377,580	1,275,411	1,104,527	762,992	1,475,376	775,382	1,039,680
児童当たり	23,962	65,580	46,022	134,254	120,057	27,088	61,474	26,046	39,337
児童数(人)	633	139	449	57	46	507	240	387	2,458

平成24年度の新聞記事より

平成25年10月30日作成

①平成24年6月6日記事（栄町）

北辺田小学校（51人）、酒直小学校（66人）

⇒安食台小学校に平成27年4月統合

②平成24年9月5日記事（八千代市）

八千代台第2小学校（216人）

⇒八千代台東小学校に平成25年4月統合

③平成24年10月5日（芝山町）

菱田小学校（34人）、東小学校（59人）

⇒芝山小学校に平成27年4月統合

④平成24年11月21日（鴨川市）

江見小学校（67人）、太海小学校（67人）、曾呂小学校（49人）

⇒旧江見中学校跡地に平成27年4月統合

⑤25年2月25日記事（南房総市千倉）

七浦小学校（60人）、忍戸小学校（53人）、朝夷小学校（113人）、

⇒健田小学校に平成26年4月統合

(はじめに)

児童生徒の推移数を地域別に見ると、農村地域では少子化が進展する中で、児童生徒の減少が続いており、学校の小規模化が進んでいる。一方、七栄地区など開発が進められている地区では、児童生徒数が若干ながら増加している。

このように、学校の小規模化が進行し、学校規模の格差が拡大する傾向にあることが本市の特徴であり、市全体として児童生徒数が減少傾向である一方で、各地区では教育環境に問題が生じている。

学校教育は、学級・学年という枠組みの中で、一定規模の集団を前提として成立する制度である。

このなかで、子どもたちは互いに学び合ったり、よい意味での競争心をもって切磋琢磨したり、仲間同士で協力しあって何かを達成したりするなど、さまざまな経験などを通して、それぞれの発達段階に見合った自主性・主体性さらには社会性・協調性を身につけていくこととなる。

大規模化や小規模化が学校教育に及ぼす影響については、もちろんマイナスの面だけでなくプラスの面もあるが、学習指導や学校運営など教育活動全般にわたり、適正規模との乖離の程度に応じてマイナスの影響は大きくなっていく。

子どもたちにとって、どのような教育がもっとも望ましいものであるか考えたとき、教育の中身に格差が生じないように、学校規模の面から教育環境を見直さなければならない。

1 検討の背景と経緯

○社会の各方面で大きな変化が進むなか、教育分野においても地方分権が推進されている。学校を設置する市町村の教育委員会が、主体性をもって新しい教育の在り方を追求し、子どもたちに最善の教育を提供する役割と責任を果たしていくことが強く問われている。

○本市においても、少子化が進み、学校によっては学校運営上の課題が生じるとともに、教育環境の公正性を保持すべきとの声が聞かれる。このため、子どもたちを育む学びと生活の空間である学校の規模や適正な配置について早急に検討し、よりよい教育環境の実現に取り組むことが緊急かつ重要な課題の一つとなっている。

○このため、諮問事項の富里市立学校の適正配置について

①3中学校体制の維持について

②複式学級の解消、学校統合の必要性について

③南部地域の小学校の配置について

を協議することとした。

2 現状と将来推計

2-1 児童生徒数の推移

○全市児童生徒数の推移

- ・平成25年度の市立小学校の児童数は2,458人で、平成2年度以降減少傾向に転じている。
- ・平成25年度の市立中学校の生徒数は1,230人で、平成8年度以降減少傾向に転じている。

(注：児童生徒数については5月1日時点の数値。以下についても同様。)

○富里中学校区、富里北中学校区、富里南中学校区の比較

- ・中学校区ごとに傾向をみると、富里中学校区、富里北中学校区、富里南中学校区ともに減少傾向が続いている。

平成15年度と平成25年度の児童数、生徒数を比べると、富里中学校区では児童数が83人、生徒数が85人減少し、富里北中学校区では児童数が141人、生徒数が73人減少し、富里南中学校区では児童数が205人、生徒数が151人減少している。

○学校別の児童生徒数の推移

- ・平成25年度の学校別の児童生徒数は、小学校では富里小学校が633人で最も多く、洗心小学校が46人で最も少ない。
中学校では富里中学校が684人で最も多く、富里北中学校が257人で最も少ない。
- ・平成15年度以降、児童数が増加している小学校は、富里小学校(1.02)、七栄小学校(1.35)で、減少率が大きい小学校は洗心小学校(0.62)、富里第一小学校(0.59)、浩養小学校(0.44)である。
- ・平成15年度以降、生徒数が増加している中学校はなく、減少率は富里中学校(0.89)、富里北中学校(0.78)、富里南中学校(0.66)である。

2-2 将来の児童生徒数・学級数

○推計の考え方

将来児童生徒数は、平成25年4月1日現在の住民基本台帳をベースに、転入・転出など(私立学校への流出を含む)に伴う増減率の直近5年間の平均値とし、学区別年齢・学年別に求める。

平成25年4月1日以降の0歳児については、平成18年から平成20年までの3年間に生まれた実数を5歳区分の出産年齢人口(15歳から49歳)で除してその平均を出生率とした。

・学区別年齢別増減率の算出結果は、次表のとおりである。

年齢別学年別の増減率(平成25年度)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
富里小	-	1.030	1.007	1.014	1.015	0.995	0.986	1.009	0.989	0.990	1.004	1.004
富里第一小	-	1.043	0.938	1.028	1.034	0.986	0.936	1.023	1.008	1.005	1.075	1.003
富里南小	-	0.991	0.930	0.931	0.993	0.955	0.993	0.997	0.962	1.005	1.005	1.035
浩養小	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
洗心小	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日吉台小	-	0.960	1.000	0.991	1.019	1.005	1.049	1.005	1.002	0.998	0.996	0.986
根木名小	-	1.004	0.968	1.005	0.981	1.031	0.982	1.012	0.991	0.996	0.976	0.982
七栄小	-	0.936	0.959	1.041	1.024	1.034	0.993	0.994	1.016	0.989	0.986	1.023

	12歳	13歳	14歳
富里中	0.992	1.008	1.010
富里北中	0.983	0.983	0.983
富里南中	-	-	-

※浩養小学校、洗心小学校については、母数が少数であり増減率を利用すると実数とかけ離れた推計となるため、増減率は算出しない。それに伴い、富里南中学校の増減率も算出しない。

○地域開発などに伴う人口増加の考慮

- ・地域開発による人口増加は、平成20～25年の世帯数の増加により児童生徒数の増加が見込まれないこと、大規模な開発の計画がないことから、地域開発による将来児童生徒数の増加は考慮しないものとする。

2-2-1 将来の児童生徒数

(1) 小学校

○推計の基本となる平成25年(0～5歳)の実績をスライドした児童数

- ・平成30年度の学校別の児童数は、富里小学校が622人で最も多く、ついで七栄小学校が462人、日吉台小学校460人、富里南小学校477人で多く見込まれる。
- ・一方、洗心小学校が27人で最も少なく、次いで浩養小学校が59人、第一小学校が139人と見込まれる。

学校別のH25実績(0～5歳)をスライドした児童数

	実測値(人)		児童数の推移	推計値(人) (H25の0～5歳)	児童数の推移
	H20	H25	H25/H20	H30	H30/H20
富里小	673	649	0.96	622	0.92
富里第一小	193	166	0.86	139	0.72
富里南小	501	462	0.92	477	0.95
浩養小	127	64	0.50	59	0.46
洗心小	47	37	0.79	27	0.57
日吉台小	580	500	0.86	460	0.79
根木名小	271	239	0.88	187	0.69
七栄小	316	365	1.16	462	1.46

(2) 中学校

○推計の基本となる平成25年の実績をスライドした生徒数

- ・平成30年度の学校別の生徒数は、富里中学校が718人で最も多く、次いで富里南中学校が338人、富里北中学校が274人と見込まれる。

	実測値(人)		生徒数の推移	推計値(人) (H25の6～8歳)	生徒数の推移
	H20	H25	H20/H15	H30	H30/H20
富里中	744	698	0.94	718	0.97
富里北中	321	288	0.90	274	0.85
富里南中	353	309	0.88	338	0.96

2-2-2 将来の学級数

(1) 小学校

- ・児童数の将来推移を考慮した小学校の普通学級の見込みは、以下のとおりである。
- ・算出方法は、現状の市の学級編制方針と同様に1～2年生は1学級35人、

3～6年生は1学級38人として、学級数を算出している。

	児童数（人）		学級数（普通学級）	
	現状 H25	将来 H30	現状 H25	将来 H30
富里小	649	622	19	19
富里第一小	166	139	6	6
富里南小	462	477	14	16
浩養小	64	59	6	6
洗心小	37	27	(4)	(4)
日吉台小	500	460	16	15
根木名小	239	187	10	7
七栄小	365	462	12	16

注：括弧書きは複式学級となった場合の学級数を表す。

(2) 中学校

- ・生徒数の将来推移を考慮した中学校の普通学級の見込みは、以下のとおりである。
- ・算出方法は、現状の市の学級編制方針と同様に1学級38人として、学級数を算出している。

	生徒数（人）		学級数（普通学級）	
	現状 H25	将来 H30	現状 H25	将来 H30
富里中	698	718	19	21
富里北中	288	274	8	9
富里南中	309	338	9	9

3 基本的な考え方

- これからの本市における学校の規模や配置を検討するに当たり、最も基本としたのは、子どもたちに提供する教育の質の確保・向上という点である。
- 国が定める教育課程の基準である学習指導要領は大綱化・弾力化が進められており、各学校の裁量は拡大している。各学校において教育課程や学習指導な

どの工夫改善に努め、学力向上をはじめ子どもたちの豊かな成長を保障することが求められている。

○そのためには、何より教師の指導力の向上に努め日々の授業を充実することが重要であるとともに、その基盤となる教育条件を整えることが必要である。

○上記の点から考えたとき、複式学級での授業には大きな困難がある。具体的には、「児童生徒が多様な考えを出し合って互いにみがき合い学びあうことができず、個々の考え方をより深く練り上げていくことが難しい。」「人間関係が固定化され、ややもすると社会性やコミュニケーション能力の育成が難しい。」

「児童生徒数や職員数が少ないことから、児童生徒の活動が制限されることがある。」といったことが指摘できる。

○このような困難な点を抱える複式学級における指導には、教師に高い力量が求められるとともに、負担が大きくなる。たとえば、職員数が少ないため個々の役割が多くなる、2学年の教材研究をしなければならなくなるなど過重な負担が生じることとなる。

○何より、子どもの側からみると、教師から当該学年の内容について直接丁寧な指導を受けることができる時間が、複式学級でない場合に比べて少なくならざるを得ない。

○国における学校規模についての考え方は、小学校についてはクラス替えが可能な、中学校については教育活動において生徒の多様な希望に応えることが可能な、1学年複数学級が確保できる12学級から18学級を適正規模としている。

ただし、12学級を下回った場合においても、ある程度の規模が確保できれば、様々な工夫や努力を行い、特色ある学校・教育づくりを推進することによって、学校教育本来の機能を発揮できるものと考えられる。

○しかし、上記のような複式学級が抱える教育上の困難性を考慮するとき、小規模特認校としての指定など一定の複式学級解消の取り組みを経て、それにもかかわらず、その解消の見通しが立たない場合には、学校の統合を行うことを基本的な原則とすることが適当と考える。

4 諮問事項について

①3中学校区体制の維持について

○中学校については、教育活動の範囲が小学校よりも更に広くなること、また、生徒の個性が著しく発達する時期であり幅広い人間関係を構築するようになることなどから、小規模校と適正規模校との教育的格差は小学校より拡大し、その弊害も大きくなることも考えられるが、当市において中学校は北部、中央部、南部とバランスよく配置されており、当面は3中学校区体制とすることが適当と思われる。

○中学生については、各学校において通学距離に応じ自転車による通学を認め

ており、また、体力的な面からも小学生に比べてより遠距離の通学が可能であるため、通学路の整備状況や安全確保について配慮する必要がある。

②複式学級の解消、学校統合の必要性について

○子どもたちに公平な学習環境を提供するため、複式学級の解消を目標として学校規模適正化に取り組むものとする。

○学校規模が過小（5学級以下）あるいは他校との教育格差が生じるおそれがあると推測され、今後、児童生徒が増加する見込みがきわめて少ない学校については統合が必要な学校とする。

○この方針に基づいて、洗心小学校は富里南小学校と早急に統合することが妥当である。

③南部地域の小学校の配置について

○今回統合対象校としてあげられた学校以外でも、今後の動向によっては過小規模となる可能性のある学校（浩養小学校）については、それらの学校が、将来、過小規模となった場合においても教員配置や授業の組み立てにおいて実質的に複式学級にならないよう最大限努力するものとし、あわせて小規模特認校制度の導入検討等により、児童数の確保に努めるものとする。

○しかし、複式学級が継続的に解消しない場合は、統合することが妥当と思われる。

5 配慮事項

○学校統合を実施する場合、子どもたちの成長と地域住民の学校への思いやその教育への期待を考慮するとき、統合しなかった場合よりも格段に教育の充実が図られることを目指すことが必要である。

○大規模校が小規模校を吸収するという考えに立つのではなく、統合後には新たな学校づくりを目指すことが適当である。保護者はもとより新しい校区の住民が一体となって学校教育を支える体制づくりが重要である。そのため、啓発を進めることが必要である。

○地域が参画する新しい学校づくりのため、学校運営協議会を設置することも考えられる。

○教育委員会として、学校統合の推進とあわせて、児童や地域の負担をできるだけ軽減するために、次のような支援を行うことが妥当である。

- 1) スクールバス等の運行・・・学校統合によって通学区域が拡大した学区については、地域の実情に応じて、児童の通学における安全確保のためにスクールバスを運行する。

平成25年12月20日(金)

富里市学校適正化配置検討委員会答申書(たたき台)

- 2) 指定校変更の弾力化 ・ ・ ・ 統合対象学区の児童は、その実情に応じて他の学校へ指定校変更できるようにするなど、柔軟な対応が取れるようにする。
- 3) 学校跡地の利用 ・ ・ ・ 学校統合後、廃校となる学校の土地、建物については、地域での市民利用等、住民ニーズを十分に踏まえて有効に活用できるよう、地域住民と組織的に協議を行う。
- 4) 交流の促進 ・ ・ ・ 統合後の運営がスムーズにいくよう、統合前から学校間の交流を図る。
- 5) 心のケア ・ ・ ・ 統合後においては、児童の負担を減らすためにスクールカウンセラーを配置するなど、心のケアに努める。

【検討】

答申後の進め方

- ・ 答申を踏まえて、最終的には教育委員会が決定する。
- ・ 方針決定後は、児童の心情に配慮するとともに保護者、地域住民等に丁寧に説明し、理解に努める。

洗心小学校

小規模特認校制度のご案内

小規模特認校制度とは、通常の学区と異なり、通学区域を広げて（富里市内全域を学区とする。）児童の募集を行う制度です。この制度は、あくまでも当該学校の教育活動・特色に共感を持つ児童・保護者が希望し、入学許可条件をもとに教育委員会が就学を認める制度です。富里市では平成22年度より、洗心小学校を指定しています。

小規模特認校の転入学条件は・・・

次のすべての要件を満たす世帯の児童

- ・市内に住所を有し、富里市立小学校に就学している児童
または就学予定の児童であること
- ・原則として、通年通学すること
- ・保護者の責任と負担で通学すること
- ・洗心小学校の教育活動について理解し、協力できること



みなさんも **洗心小学校** で学んでみませんか？

洗心小学校って、どんな学校・・・

洗心小学校の児童数は現在44人です。

豊かな自然に囲まれた環境と小規模校の特徴を生かして、きめ細かな指導と一人ひとりの子どもの個性を大切にしたい教育活動を展開しています。

また、地域のみなさんと一体となった体験学習も盛りだくさんです。学校・保護者・地域が子どもたちのために精一杯力を合わせる学校です。

少人数の学級の中で、きめ細かな学習指導を希望されるご家庭や豊かな自然の中で伸び伸び子どもの個性を育みたいご家庭は見学にいらしてください。また、年度途中の転入申請については、通年受け付けしています。

問い合わせ先 転入の申請は **0476(93)7658** 教育委員会 学校教育課へ
学校の見学は **0476(94)0851** 洗心小学校へ

E-mail senshin@educ.plala.or.jp

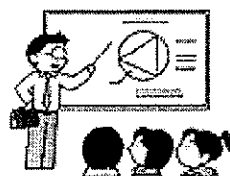
・・・洗心小学校の目標・特色・・・

学校教育目標

「豊かな心を持ち 学習意欲のある たくましい児童の育成」
 ～ きめ細かい指導 一人ひとりが主役 めくもりのある洗心小 ～

めざす児童像

しっかり あいさつする子・しっかりと 話を聞く子・しっかりと 本を読む子



特色ある教育活動

豊かな体験活動を取り入れています。

他校と学習交流を継続的に行っています。

青少年赤十字活動に参加し、救急法について学習したり、福祉施設等との交流を
 したいすることで福祉教育を推進しています。

☆ 洗心小学校では、こんな行事をしています。

月	主 な 年 間 行 事 (平成25年度)
4	始業式、入学式、授業参観・保護者会・PTA総会、家庭訪問、避難訓練
5	1年生を迎える会、交通安全教室、郡陸上大会、奉仕作業、PTA資源回収
6	授業参観・バザー、とみの国検定、郡陸上大会
7	4・5年生宿泊体験学習、個人面談、ゆめ仕事ぴったり体験・市ミニバスケット大会
8	夏休み、PTA奉仕作業
9	避難訓練、秋季連合大運動会、とみの国検定、PTA資源回収
10	前期終業式、後期始業式、富里市小中音楽祭、1～3年校外学習、マラソン練習開始
11	6年生修学旅行(箱根・鎌倉方面)、秋のメロディーコンサート・ミニ集会
12	書初め練習会、マラソン大会・もちつき、クリスマス会、PTA資源回収
1	書初め大会(書初め展示)、避難訓練、とみの国検定
2	入学説明会、授業参観、学力テスト
3	6年生を送る会、卒業式、修了式、離任式

※その他、定期的に全校集会・もいのなかさんお話し会・心を育てる栽培活動も実施しています。

洗心小学校の情報はホームページからも見るができます。

<http://ptc.jrscomware.com/senshin-es/default.asp>